

# DME セットアップマニュアル

本マニュアルでは、DMEユニットの初期設定 (DME64N / DME24N / DME8i-C / DME8o-C / DME4io-C / DME8i-ES / DME8o-ES / DME4io-ES) から、コンピュータにインストールされたDME Designerとの同期化まで、DMEシステムのセットアップ方法について説明します。

- DMEユニット別の詳細なセットアップ方法については、該当するユニットに付属のマニュアルを参照してください。またDME Designerの詳細なセットアップ方法については、DME Designer マニュアル (pdf) を参照してください。
- 本マニュアル内では、「DME」とはDME64NおよびDME24Nを意味します。また「DME Satellite」とはDME8i-C、DME8o-C、DME4io-C、DME8i-ES、DME8o-ESおよびDME4io-ESを意味します。

## 1. ソフトウェアのインストール

- 1-1. DME DesignerとDME-N Network Driverをインストールします。
- 1-2. USB-MIDI Driverをインストールします。

▶ページ  
02



## コンピュータとDMEユニットの接続

このセクションでは、DMEユニット1台をコンピュータに接続する方法と、同一サブネット内のDMEユニット複数台をコンピュータに接続する方法の二つについて説明します。

### 2. 基本セットアップ

#### DMEユニット1台を直接コンピュータに接続 (USBケーブル経由)

- Mini-YGDAIカードをDMEにセットアップします (拡張カード使用時のみ)。
- コンポーネントと書き込みコンフィグレーションを構成します。
- オンライン接続し、サウンド出力をチェックします。

▶ページ  
04

### 3. 高度なセットアップ

#### 複数台のDMEユニットをコンピュータに接続 (イーサネットケーブル経由)

- DMEをセットアップします。
- コンピュータのIPアドレス設定を変更します。
- DME-N Network Driverを設定します。
- DME Designerと接続します。

▶ページ  
08

## 4. DMEユニットの詳細情報

### 外部デバイスへの接続

このセクションでは、イーサネットまたはGPI経由でのリモートコントローラの接続法について説明します。

▶ページ  
13

### パネル操作によるDME64N/24Nネットワークのセットアップ

このセクションでは、DME64N/24N から直接ネットワークをセットアップする方法について説明します。

▶ページ  
13

### DMEユニット・周辺機器関連ホームページ

このセクションでは、Speaker Processor Componentのライブラリデータ、オプションカード、タッチパネルコントローラ (AMX/Creston) に関するオンライン情報についてご案内します。

▶ページ  
13

### 付録: DME-N Network Driverの詳細な設定法

▶ページ  
14

### 問題解決とヒント表

この表をご覧になれば、DME ユニットを正しくお使いいただくための手順が一目で分かります。

▶ページ  
16

# 1. ソフトウェアのインストール

はじめに、ヤマハ・プロオーディオのホームページにある「ダウンロード」ページから、DME Designer Combo InstallerとUSB-MIDI Driverをダウンロードします。

([http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/firm\\_soft/index.html](http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/firm_soft/index.html)).

DMEシリーズのデバイスをコンピュータに接続し、使用するためには、下記のアイテムをダウンロードする必要があります。

## ■ DME Designer Combo Installer

注：DME-N Network DriverとDME Designerは個別にダウンロードすることもできますが、DME Designer Combo Installerをダウンロードすれば、DME Designerと同じフォルダ内にDME-N Network Driverもダウンロードされます。

### 1. DME Designer：

この専用アプリケーションを使用すれば、DMEユニット内部のシステム設定を行うことができます。

またサウンドプロセッシング・コンフィグレーションのセットアップを簡単に行うことができます。

注：DMEユニットが接続されていない場合でも、DME Designerをコンピュータ上で、無料で使用することができます。

### 2. DME-N Network Driver：

このドライバは、コンピュータと、1台ないしは複数台のDMEユニットをイーサネット経由で接続する際に必要となります。

## ■ USB-MIDI Driver：

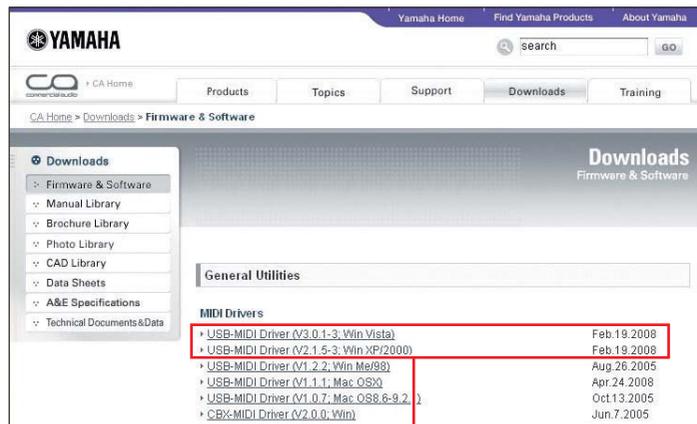
このドライバは、コンピュータと1台のDMEユニットを、USBケーブルを使用して接続する際に必要となります。

DME Designer Combo Installer

(DME DesignerとDME-N Network Driverを同梱)



USB-MIDI Driver



このリンクを利用して、必要なドライバをダウンロードします。

使用するコンピュータのOSに対応するドライバを選択します。

注：DME Designer V3は、Windows 2000、XP、Vistaをサポートしています。

各アイテムをダウンロードしたら、それを解凍し、解凍したフォルダをデスクトップなどの判りやすい場所において下さい。次に、下記に説明する手順に従って、ソフトウェアをインストールします。

## 1-1. DME DesignerとDME-N Network Driverのインストール

下記の手順に従い、DME Designer Combo Installerを使用してDME DesignerとDME-N Network Driverをインストールします。

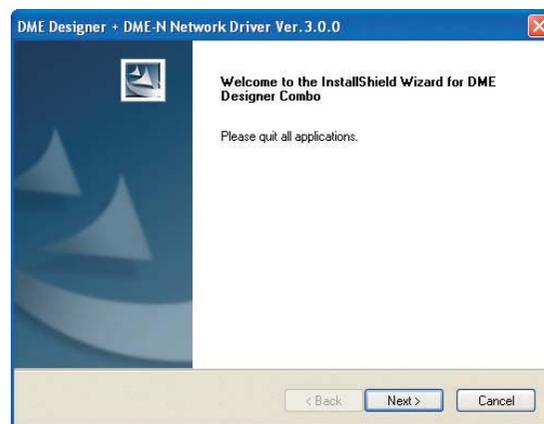
### 1-1-1. ダウンロードと解凍が終了したら、DME Designer Combo Installer V\*\*.\* フォルダを開き、「setup.exe」ファイルをダブルクリックします。

DME Designer Combo Installer用セットアップウィザードが表示されます(注：V\*\*.\* には、実際のファイルのバージョン番号が入ります)

### 1-1-2. 画面上に表示された指示に従い、ソフトウェアをインストールします。

まずDME Designerがインストールされ、続いてDME-N Network Driverがインストールされます。このプロセスの間に、「Program Files/YAMAHA/OPT Tools」ディレクトリ内の「DME Designer」フォルダ(初期設定)内にソフトウェアがインストールされます。

注：これらのソフトウェアの古いバージョンがコンピュータにインストールされている場合、古いバージョンをアンインストールしてから新しいバージョンのインストールを開始します。この場合、古いソフトウェアをアンインストールした後、コンピュータを再起動する必要があります。古いバージョンと交換する場合でも、初めてソフトウェアをインストールする場合でも、コンピュータを再起動させる必要があります。その際に表示される指示に従ってください。



## 1-2. USB-MIDI Driverのインストール

**1-2-1** DMEユニットを起動し、USBケーブルを使用してコンピュータに接続します。画面右下のタスクバー上に「デバイスドライバソフトウェアをインストールしていません。」というメッセージが表示されたら、ドライバを手動でインストールします。



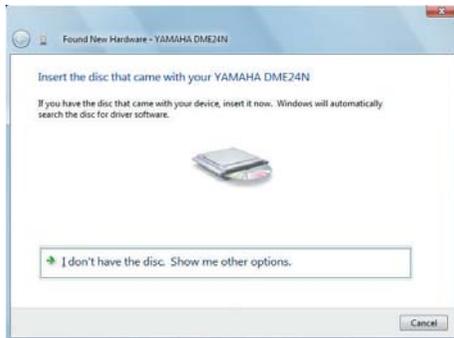
### 1-2-2

「新しいハードウェアを見つけました」ウィンドウが表示されます。「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)」を選択します。



### 1-2-3

「ディスクはありません。他の方法を試します」を選択します。



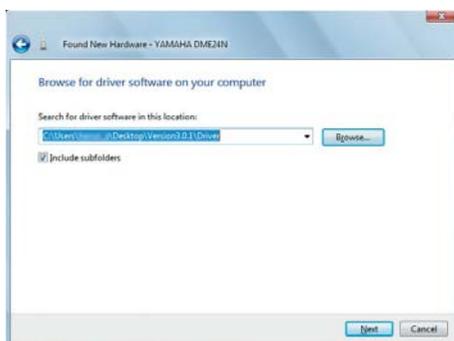
### 1-2-4

「コンピュータを参照して、ドライバソフトウェアを検索します(上級)」を選択します。



### 1-2-5

[Browse]ボタンをクリックします。ダウンロード・解凍した「Driver」フォルダを指定し、[OK]をクリックします。[Next]をクリックし、インストールを開始します。



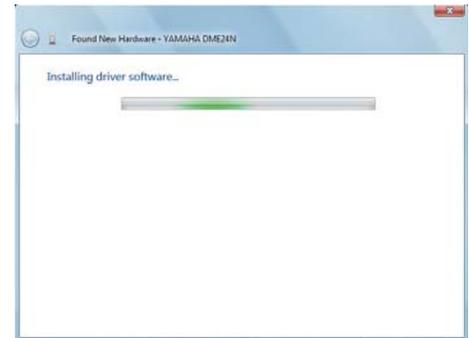
### 1-2-6

[Install]ボタンをクリックします。



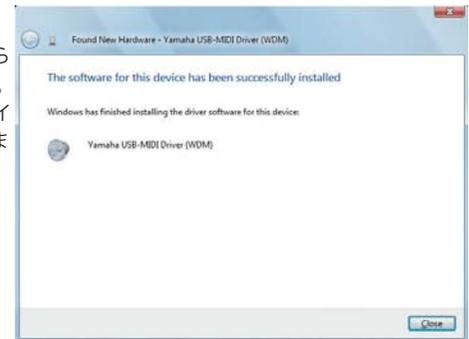
### 1-2-7

ドライバソフトウェアをインストールします。



### 1-2-8

インストールが完了したらメッセージが表示されます。[Close]をクリックし、ドライバのインストールを完了します。



### 1-2-9



ここで説明した手順と画面は Windows Vista の場合です。Windows 2000 または Windows XP を使用している場合には、画面の指示に従って同様にセットアップを行ってください。

DME Designerシステム要件に関する最新情報については、ヤマハ・プロオーディオ・ホームページをご覧ください。

<http://proaudio.yamaha.co.jp>

#### 問題解決とヒント

##### USBポートとドライバのインストールに関する注意点

複数のUSBポートが装備されたコンピュータの場合、ドライバが各ポートに個別にインストールされます。したがってインストール完了後に、元々使用していたポートとは別のポートを使用して接続する場合、ドライバを再度インストールする必要があります。これを避けるには、DME接続専用ポートをあらかじめ設定しておくか、コンピュータの全ポートにドライバをインストールしておくようにします。また使用するDMEの機種によって、USBドライバが異なることにも注意してください。同じバージョンのDMEユニットであれば、複数のユニットに対して同じドライバを使用することができますが、例えばDME64NとDME24Nのようにバージョンが異なる場合には、異なるUSBドライバが必要となります。(厳密にはUSBドライバ自体は同じものですが、インストールの際に使用するINFファイルが異なります)

##### USBハブの使用は避ける

デジタルミキサーを使用する場合、USBハブを通じて接続したDMEユニットをコンピュータが認識しないことがあります。したがって原則として、コンピュータに備え付けのUSBポートに直接接続するようにしてください。

## 2. 基本セットアップ

### DMEユニット1台を直接コンピュータに接続 (USBケーブル経由)

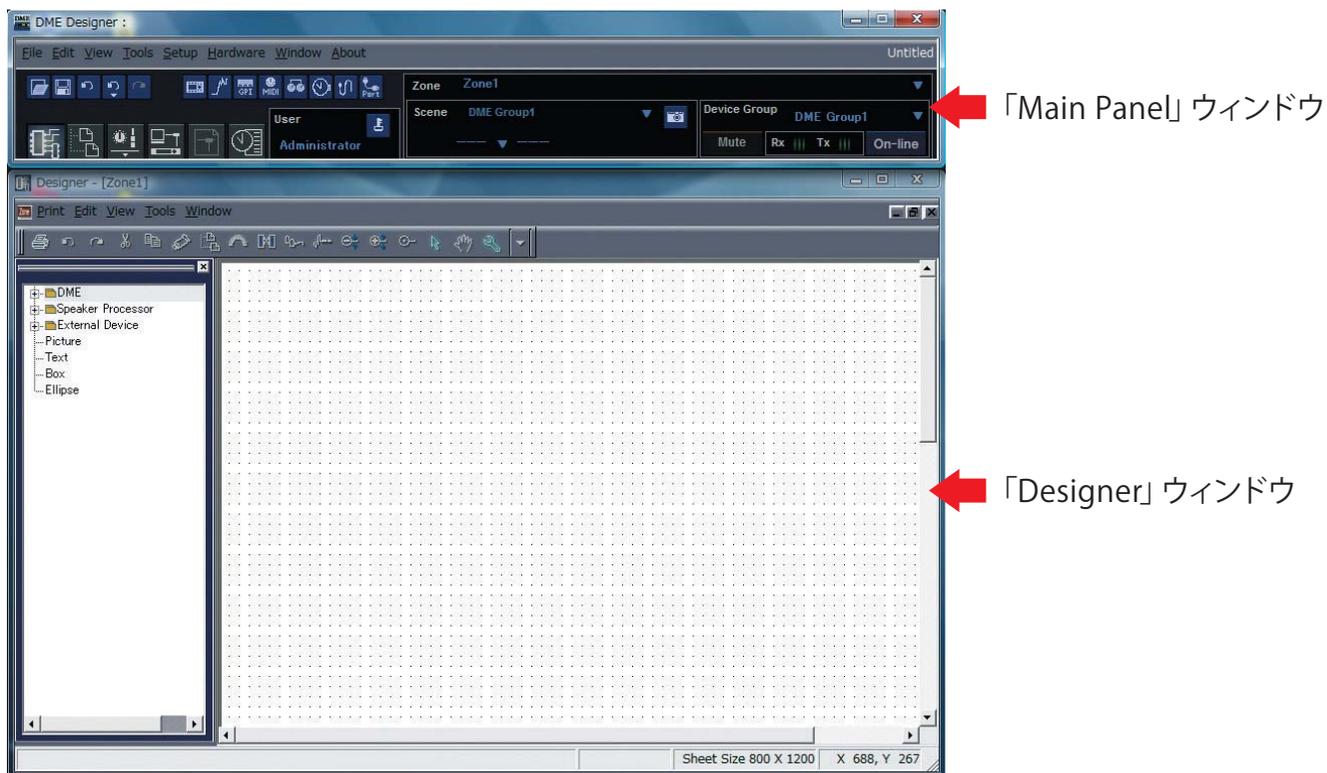
このセクションでは、最も基本的なコンフィグレーションである、1台のパソコンで1台のDMEユニットをコントロールする方法について説明します。



#### 2-1. 準備

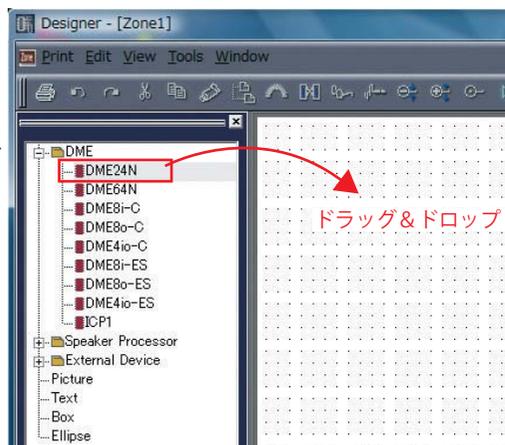
DME Designerを起動する前に、必ずDMEユニットの電源をオンにしてから、USBケーブルを使用してコンピュータに接続してください。DMEユニットを接続したら、DME Designerを起動します。

起動すると、2つのウィンドウが表示されます。



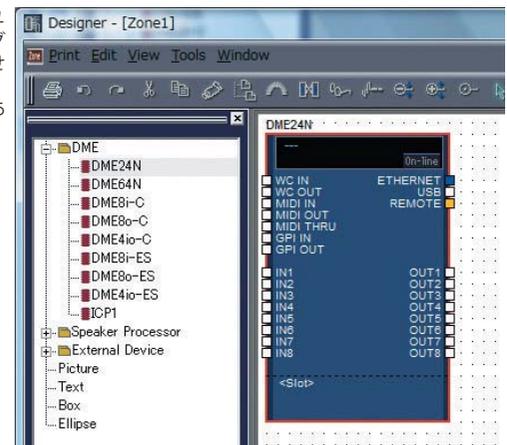
その時点で接続されているDMEユニットを編集用にセットアップするためには、「Designer」ウィンドウ左側の[DME]をダブルクリックします。

次に、その時点で接続されているDMEユニット (ここではDME24N) をダブルクリックするか、リスト右側の編集エリア内にドラッグ&ドロップします。



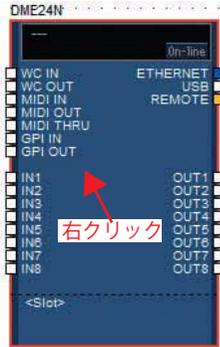
この作業を行うと、「Device Group」ウィンドウと「Sampling Frequency Setting」ウィンドウが表示されます。[OK]ボタンをクリックして、次に進みます。

\* 接続されているDMEユニットが1台のみの場合、グループ設定は必要ありません。  
\* サンプリングレートはあとで変更できます。



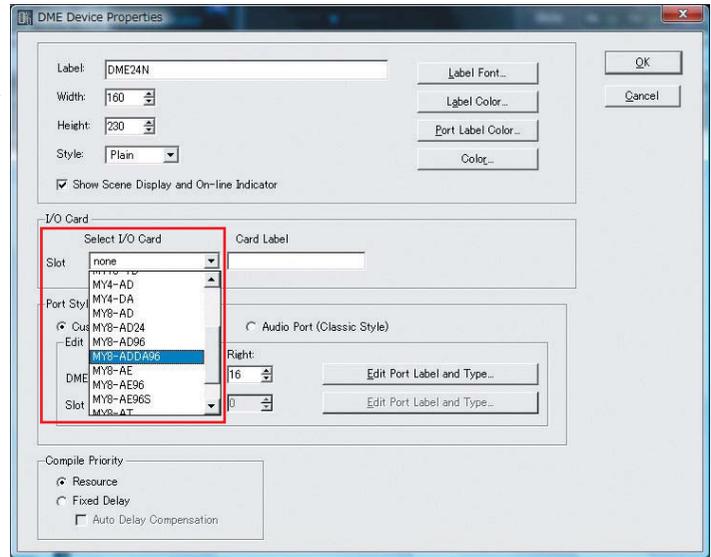
## 2-2. 拡張 (Mini-YGDAI) カードのセットアップ

以下の設定は、DME24NまたはDME64Nに拡張カードを使用する場合にのみ必要となります。該当しない場合には、次のステップ(2-3)に進んでください。



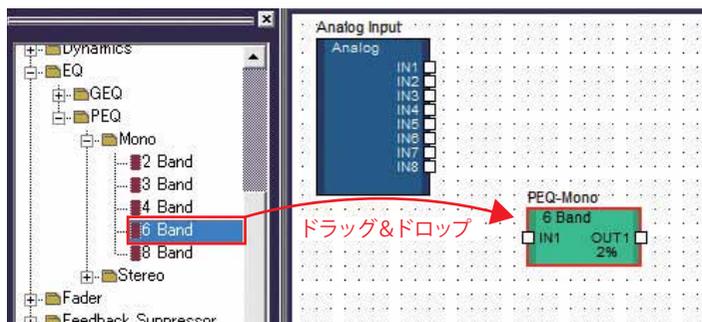
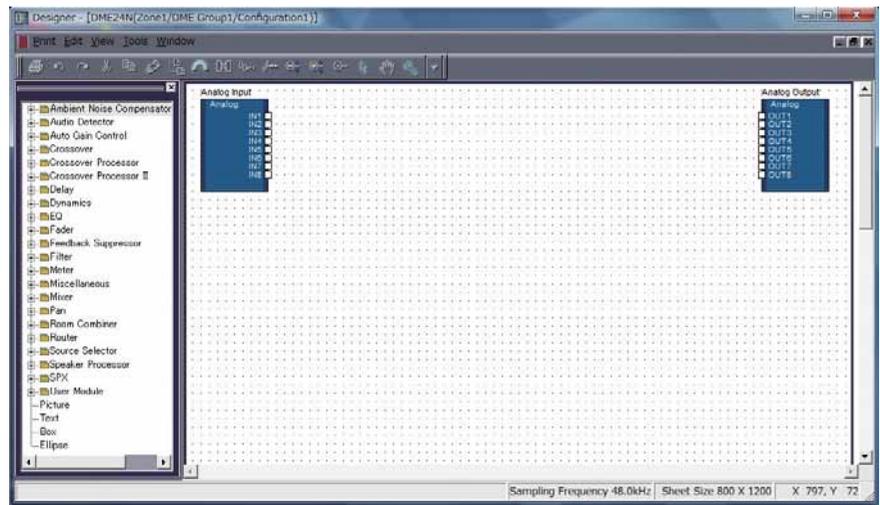
拡張カードがDMEユニットに挿入されていることを確認した上、該当するDMEのアイコンを右クリックし、表示されたメニューの一番下の[Properties...]を選択します。

「DME Device Properties」ウィンドウが表示されたら、下図のように現在挿入されている拡張カードを選択し、[OK]ボタンをクリックします。

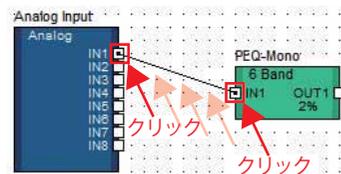


## 2-3. コンポーネントの構成

最初に、使用するDMEユニットのアイコンをダブルクリックし、「Configuration」ウィンドウを表示します。

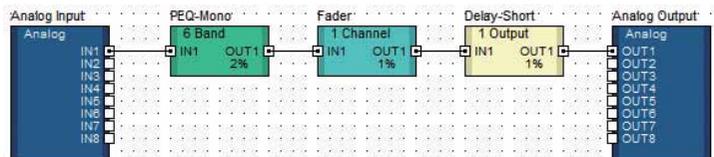


左側のリストの中から目的のコンポーネントを「Configuration」エリアにドラッグ&ドロップします。



目的の入力または出力ポートをクリックして、接続ワイヤの末端を目的の場所にドラッグし、コンポーネントを接続します。

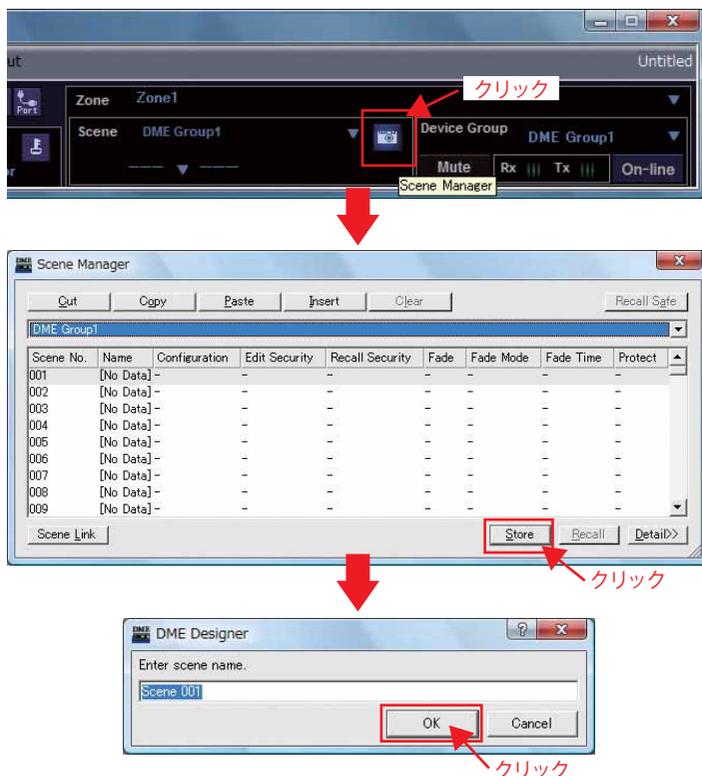
\* マウスを使い、「Configuration」エリア内ならどこでも自由にコンポーネントをドラッグすることもできます。コンポーネントまたは誤って接続されているワイヤを削除するには、コンポーネントまたはワイヤをクリックし、赤くなったことを確認してからコンピュータ・キーボードの[Delete]ボタンを押します。



下図のように、同じ要領ですべての接続をセットアップしたら、次にDMEユニット用のコンフィギュレーションの書き込みを行います。

## 2-4. シーンの設定

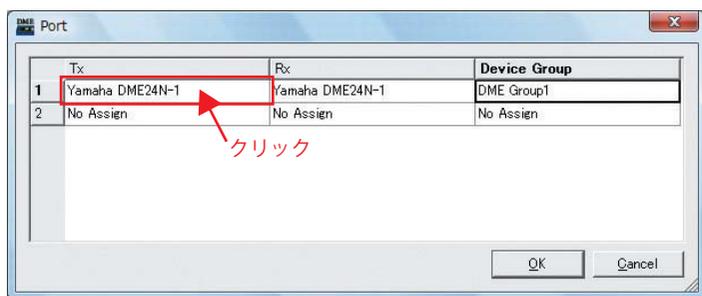
これまでに作成したデータのセットアップを行うには、最初にシーンを少なくとも1つは作成しなければなりません。下図の手順に従ってセットアップを行います。



## 2-5. オンライン接続



「Port」ウィンドウが表示されたら、下図のようにTx、Rx、デバイスグループ設定を確認します。空欄がある場合には、クリックしてオプションのリストを表示し、適切なオプションを選択します。

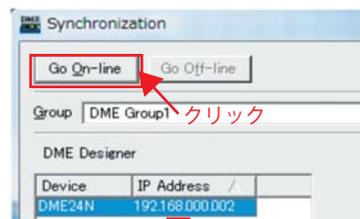
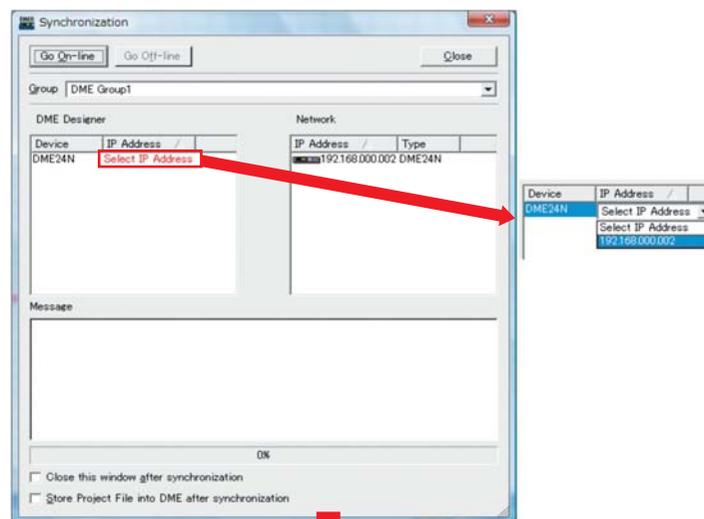


\* クリックしても目的のアイテムが表示されない場合、上記ステップ(2)から設定手順を再度実施してください。

次に、「Main Panel」ウィンドウの[On-line] ボタンをクリックします。



「Synchronization」ウィンドウが表示されると、赤い文字で「Select IP Address」と表示されます。このメッセージをクリックし、ドロップダウンメニューから目的のIPアドレスを選択します。



「Sync Direction」ウィンドウが表示されたら、[DME Designer -> Device]が選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

プロンプトに「同期化中は音声がなくなります。よろしいですか?」と表示されたら、[Yes]ボタンを押します。

書込みが完了すると、「同期化の完了後にDesignerファイルを保存すると、次の同期化の速度を早めることができます。いま保存しますか?」というメッセージが表示されます。ファイルを保存する場合、[Yes]ボタンをクリックします。

「Synchronization」ウィンドウに戻り、[Close]ボタンをクリックします。

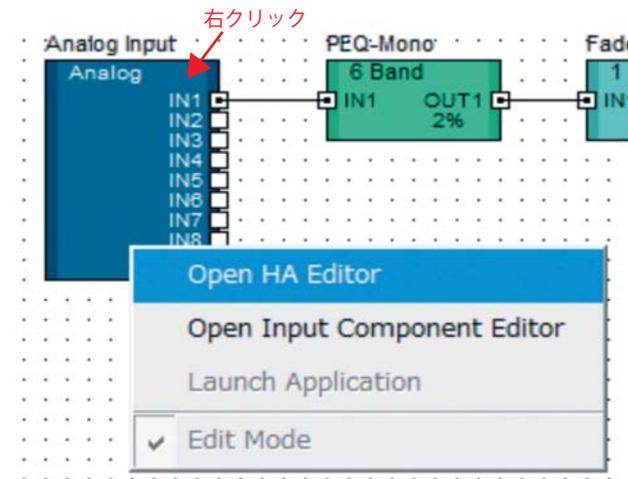
同期化に成功すると、「Main Panel」ウィンドウ右下の[On-line]ボタンが点灯します。



\* オフラインにするには、[On-line] ボタンをクリックして消灯します。

## 2-6. サウンド出力のチェック

ヘッドアンプ付属モデルの場合、システムからのサウンド出力をチェックするには、事前にHAコントロールを構成しておく必要があります。[Analog Input]アイコンを右クリックし、ドロップダウンメニューから[Open HA Editor]を選択します。



初期設定では、ゲインは+10dBuに設定されています（設定可能な最低レベル）。接続したオーディオ機器に適合するレベルに感度を調整します。

### 注

[Gain]には、適合する感度レベルを表示します。大部分のプロフェッショナルオーディオ機器（XLRコネクタ使用）の感度は+4dBuであるため、このような場合には[Gain]に「4」が表示されるようにレベルを設定します。マイクروفonなどの音源を用いて入力する場合には、ダイヤルを時計回りに回転させ、入力レベルを適切なレベルに調整します。具体的には、入力メータが示すレベルが-18dB付近となるように調整することをお勧めします。

### 問題解決とヒント

#### ハードウェアの「Utility」画面の「MIDI」ページからのホスト設定

ハードウェアの「Utility」画面の「MIDI Setup」ページには、「Host」オプションがあります。このオプションが「USB-1」または「USB-2」に設定されている場合、MIDIデータもUSB経由で通信されます。このような場合、USBケーブルを使ったDME Designerの接続を上手く行うことができなくなる場合があります。したがって、このような設定は避けてください。

**問題点：**コンピュータからUSB経由でDMEユニットをコントロールしようとしたが、正しく作動しない。

**考えられる原因その1と修正方法：**USBケーブルを接続し、DMEユニットの電源をオンにする前に、DME Designerを起動した。この場合、DME Designerを起動する前に、USBケーブルが接続され、DMEユニットの電源がオンになっていることを確認してください。

**考えられる原因その2と修正方法：**USB-MIDI Driverの「Thru ON/OFF」パラメータが「OFF」に設定されていない。この場合、[Start] → [Control Panel] → [Yamaha USB-MIDI Driver]を選択し、[Thru ON/OFF]パラメータが「OFF」に設定されていることを確認してください。

**考えられる原因その3と修正方法：**DME Designer用のUSBポートと、他のMIDIアプリケーション用のUSBポートに、同じポートを選択した。この場合、DME Designerと他のMIDIアプリケーションが異なるポートを使用するようにポート設定を変更してください。

**考えられる原因その4と修正方法：**MIDIデバイスの登録数がWindowsの制限を超えている。Windows OSでのインストールと登録が可能なMIDIデバイスドライバ数は最大で10となります。このような場合、デバイスを他のUSBポートに接続することにより、異なるデバイスとして認識されるようになる場合があります。その結果、「見かけ上」制限を超えることになります。したがってMIDIが正しく機能しない場合、USB-MIDI Driverをアンインストールした後、再インストールを試みてください。

**考えられる原因その5と修正方法：**使用しているUSB-MIDI Driverが、DMEがサポートする最新バージョンではない。この場合、ヤマハ・ホームページ (<http://proaudio.yamaha.co.jp>)から最新のUSB-MIDI Driverをダウンロードし、インストールしてください。



## 3. 高度なセットアップ

### 複数台のDMEユニットをコンピュータに接続(イーサネットケーブル経由)

#### イーサネットケーブル経由で接続する場合:

次の3つのケースでは、USBケーブルの代わりに、イーサネットケーブル経由で接続する必要があります。

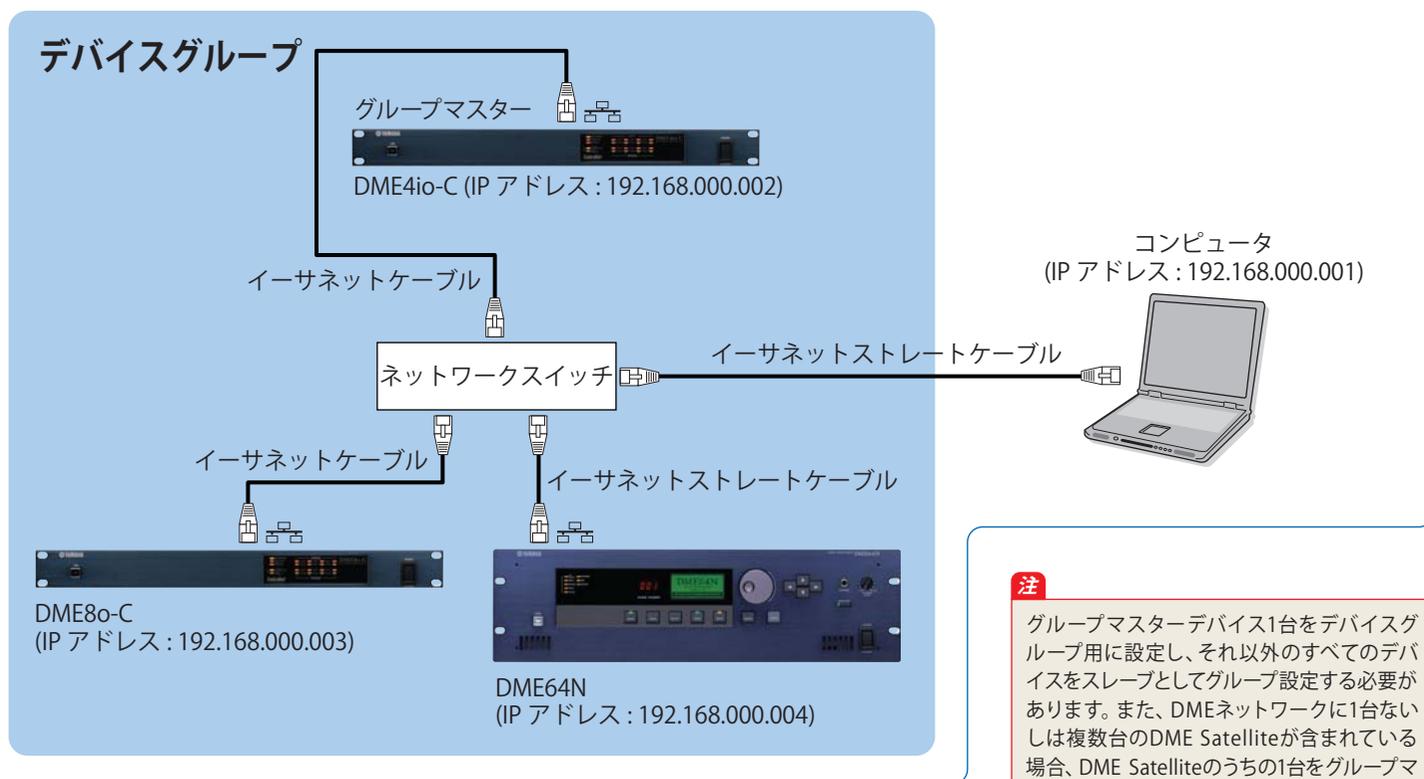
- 単一のデバイスグループで2台以上のDMEユニットを操作する場合(ネットワークスイッチ使用)。
- 接続するのに長いケーブルが必要となる場合。
- コンピュータとDMEユニット(1台ないしは複数台)を無線接続する場合。

注

オフィスでお使いのコンピュータのネットワークポートを使ってDMEと接続する場合、DMEネットワークとオフィスのネットワークとでIPアドレスを切り替える必要があります。このような場合には、USB経由で接続するか、市販のイーサネット/USBインターフェースの使用をお勧めします。市販のイーサネット/USBインターフェースを使えば、切り替えの必要はなくなります。

#### 設定例

このセクションでは、下図のコンフィグレーションを例にとって設定方法を説明します。ただし、目的とする設定が完了するまで、絶対にデバイスを接続してはならないということを忘れないようにして下さい。



注

グループマスターデバイス1台をデバイスグループ用に設定し、それ以外のすべてのデバイスをスレブとしてグループ設定する必要があります。また、DMEネットワークに1台ないしは複数台のDME Satelliteが含まれている場合、DME Satelliteのうちの1台をグループマスターとして設定することをお勧めします。

### 3-1. DMEセットアップ

USB経由で接続したDME Designerを使用して、DMEユニットにIPアドレスを割り当てます。

\* 初期設定では、すべてのDMEユニットにIPアドレスとして192.168.000.002が割り当てられています。

作業を行う前に、USB-MIDI Driverがインストールされていることを確認してください。

\* DME Satelliteには同じUSB-MIDI Driverを使用することができます。

注

ネットワークに接続する各DMEユニットに、IPアドレスを割り当てる必要があります。割り当てを行うためには、USB経由でパソコンを1台のデバイスに接続します(このセクションで説明します)。DME64NまたはDME24Nを使用する場合には、フロント画面から直接設定することができます(ページ13参照)。

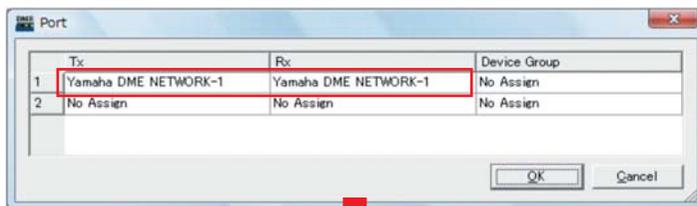


IPアドレスの設定が完了するまで、デバイスをネットワークに接続しないでください。IPアドレスの設定は、USBケーブルを用いてパソコンを各デバイスに順番に接続して行います。

**注**

コンピュータとデバイスグループマスターは、USBケーブルを使用して接続することができます。またDME Satelliteのうち1台がデバイスグループマスターに割り当てられている場合、コンピュータとスレーブDMEもUSBケーブルを使用して接続することができます。

下図のようにポートをセットアップします。



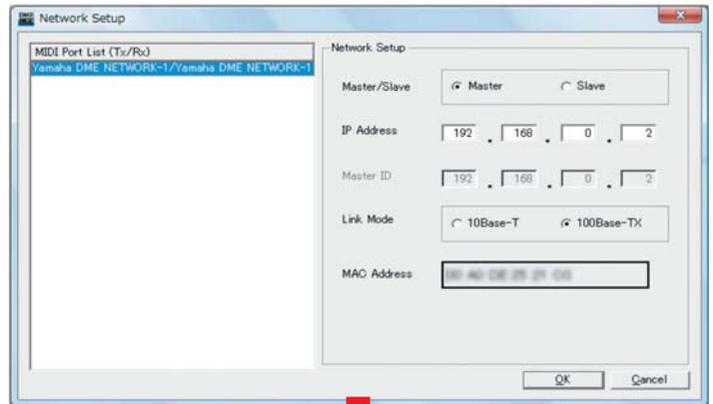
「Main Panel」ウィンドウ内の[Hardware]メニューから[Network Setup]を選択します。



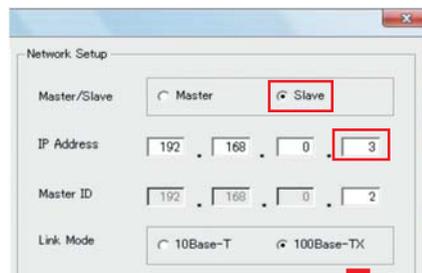
[Utility]をクリックして「Utility」ウィンドウを表示し、[Network]タブをクリックします。

\* 差し当たり、DME4io-Cの初期設定をそのまま使用してかまいません。

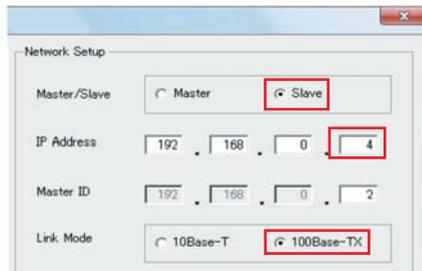
[OK]ボタンをクリックして次に進みます。

**DME4io-Cの設定**

次の手順としてスレーブの設定を行います。(1) DMEセットアップで説明したのと同じ方法で「Network Setup」ウィンドウを表示させます。

**DME8o-C**

「Network Setup」ウィンドウの「Master/Slave」エリア内から、DME8o-CとDME64Nともに[Slave]を選択します。

**DME64N**

「Network Setup」ウィンドウの「Link Mode」エリア内から、DME8o-CとDME64Nともに[100Base-TX]を選択します。

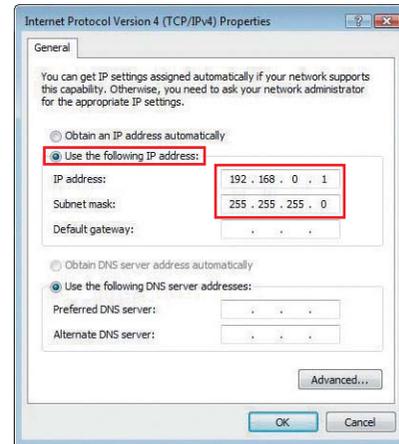
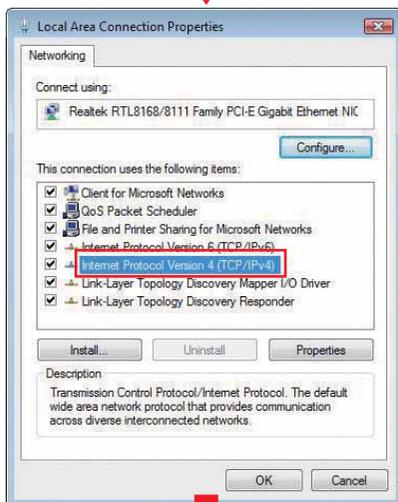
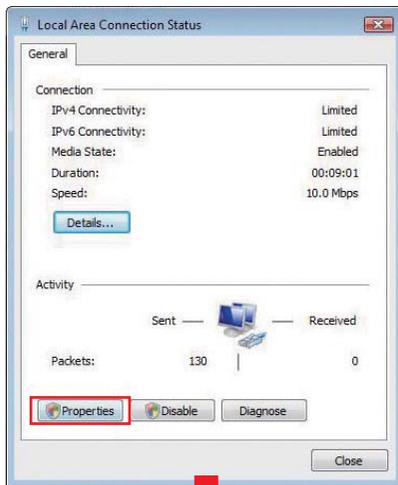
\* この際、DMEユニットにエラーが表示されても、無視してかまいません。(グループ設定がまだ行われていないために、このメッセージが表示されます)

**注**

1. スイッチに100Base-TX操作機能が備わっていることを確認してください。
2. DMEユニットとネットワークスイッチを接続するケーブルの長さは最長で100mです。ただし、上限のケーブル長で正しく作動するかどうかは、使用するハブとケーブルの品質によって左右されるため、保証できません。
3. 電磁妨害への耐性を最大にするためには、必ずカテゴリ5のシールドツイストペアケーブルを使用してください。

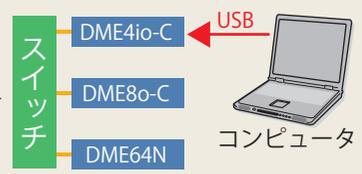
### 3-2. コンピュータのIPアドレス設定の変更

コントロールパネルを開き、「ネットワークの状態とタスクの表示」を選択します。



**注**

コンピュータをオフィス内で使用している場合など、すでにIPアドレスを取得している場合には、現在の設定を書き換えるか、USBケーブルを使用してグループマスターに接続することにより設定を行うことができます。

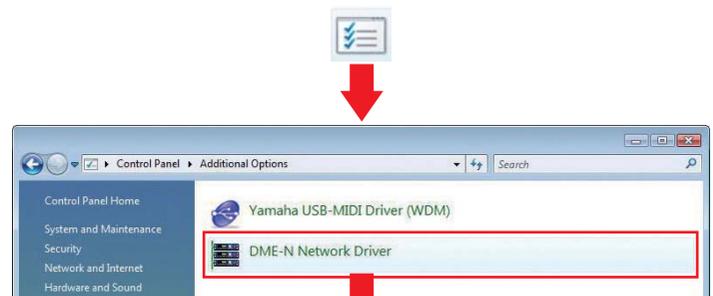


### 3-3. DMEユニットのネットワークスイッチへの接続

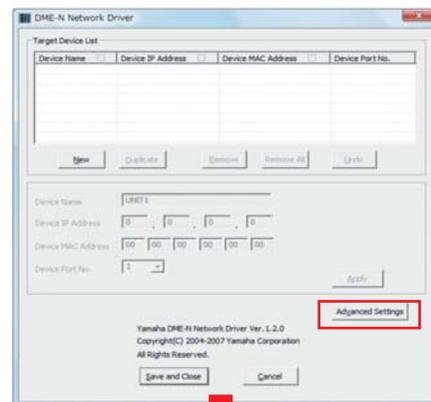
必要な設定が完了したら、イーサネットケーブルを使用して全てのDMEユニットとコンピュータをスイッチに接続します。この際、ページ08のデバイスグループ図で示したのと同じ方法を使用して、ネットワークのセットアップを行っておく必要があります。

### 3-4. DME-N Network Driverの設定

コントロールパネルから「その他のオプション」を選択します。



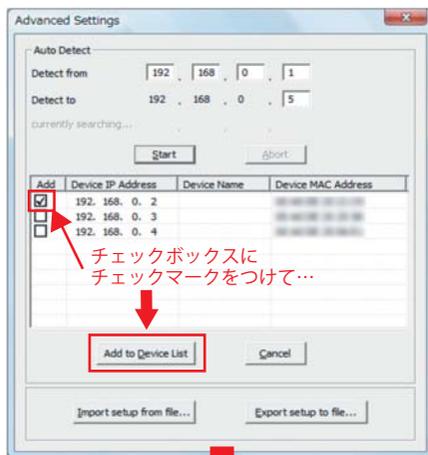
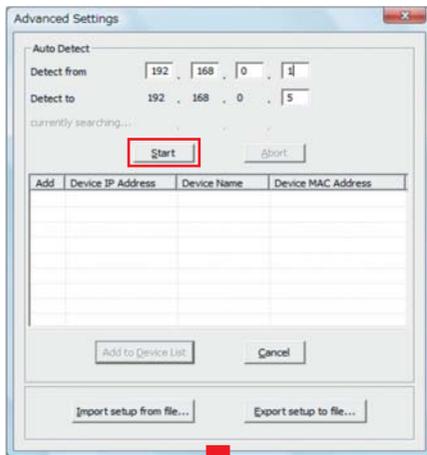
[Advanced Settings]ボタンを選択します。



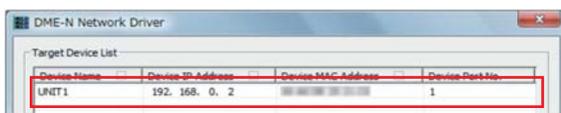
## 注

ここでは例として、1台目のデバイスのIPアドレスを192.168.0.2、2台目を192.168.0.3、3台目を192.168.0.4とします。したがって、[Detect from]の最後の数字は2以下に、[Detect to]の最後の数字は4以上に設定する必要があります。(検索範囲が大きすぎると、ソーティングにかなりの時間がかかることに注意してください)

ソートするIPアドレスの範囲を設定します。この場合は192.168.0.2から192.168.0.4までの範囲となっていますが、初期設定を選択してもかまいません。



下図のように全てのデバイスが表示されたら、[Save and Close] を選択して作業を完了します。接続された全 DME ユニットの IP アドレスが表示されますが、マスターデバイスの横のチェックボックスだけにチェックマークをつけてください。このIPアドレスを選択したら、[Add to Device List] をクリックします。



\* [UNIT1]欄に「DME4io-C」などを入力して[Apply]ボタンをクリックすれば、デバイスの名称を変更することができます。

## 3-5. DME Designerとの接続

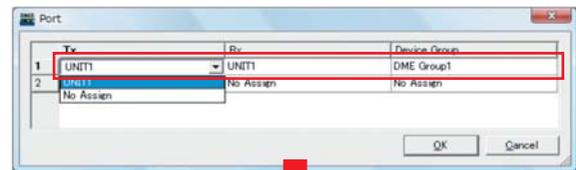
DME Designerを起動し、コンフィグレーション内に現在接続されている各デバイスをセットします。



コンフィグレーションのセットアップが完了したら、シーンを少なくとも1つ作成します。



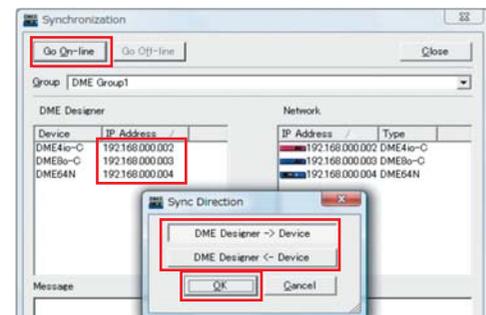
「Port」ダイアログボックス内で下図のように設定を確認し、[OK]ボタンをクリックします。



次に、「Main Panel」ウィンドウから[On-line]ボタンをクリックします。



「Select IP Address」をクリックし、全てのデバイスのIPアドレスが表示されていることを確認し、[Go On-Line]ボタンをクリックします。「Sync Direction」ウィンドウが表示されたら、[DME Designer -> Device]が選択されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



注: 複数のデバイスグループがセットアップされている場合、[Device Group]ドロップダウンメニューから同期化するグループを選択します。

## 問題解決とヒント

## 市販のセキュリティソフトウェア

アンチウィルス、アンチスパイウェアなどのインターネットセキュリティアプリケーションがコンピュータにインストールされている場合、そのファイアウォールによってDME-N Network Driverがブロックされ、DMEユニットの接続とリモート操作を行えなくなることがあります。P2Pアプリケーションなど、常時バックグラウンドで作動している通信ソフトとの互換性にも注意してください。

## パソコンの節電オプション

ノートパソコンの場合、節電オプションの一部にネットワーク接続を自動的に切断するものがあります。この機能により、その時点でオンライン接続しているDMEユニットとの接続が切断します。このような現象が見られたら、節電オプションをチェックしてください。

## コンピュータ接続用ケーブル (一対一)

DME64NとDME24Nは、クロスオーバーケーブルまたはスイッチを使用して接続できます。DME Satelliteユニットは、ストレートスルーケーブル、クロスオーバーケーブルまたはスイッチを使用して接続できます。

## 無線ネットワーク

市販の無線ネットワークアクセスポイントを利用して、無線通信機能を備えたノートパソコンと接続することができます。そのためにはネットワークについて良く理解しておくことが必要です。また、詳細な設定法についてはアクセスポイントのユーザーマニュアルを必ず参照してください。

## ワードクロックの設定

DME Designerを使用して新しいファイルを作成する場合、ワードクロックの初期設定は「INT48k」となっています。ワードクロックスレーブとしてDMEユニットの操作を行うシステムでは、オンライン接続する前にこのワードクロック設定を変更する必要があります。初期設定を変更しないままDMEユニットをオンライン接続すると、システム内の他のユニットとのワードクロックの同期が行えなくなり、クリック音が発生して他のユニットに損傷を与える可能性があります。DME Designerを使用する際には、できるだけワードクロック設定を行うことをお勧めします。

## DMEの初期化

問題が生じた際、DMEを初期化することで問題を解決する効果が得られる場合があります。特に、シーンリコール時にDMEデバイスがフリーズした場合(起動中またはオンライン接続時)にはこの方法が役立ちます。

**\*: オプション02 (Delete All Data) を選択しないようご注意ください。このオプションを選択すると、DMEデバイスのファームウェアまで削除されてしまいます。この場合、ファームウェアを更新しない限りデバイスの使用はできません。**

初期化に関する詳細については、DMEデバイス付属のオーナーズマニュアルを参照してください。特に、DME64N/DME24Nマニュアルの「DME64N/DME24Nの初期化」のセクション、またはDME Satellite用マニュアルの「DME Satellite」のセクション内に関連する情報が記載されています。

## Analyze機能の使用

DME Designerを使用してコンフィグレーションを作成したら、Analyze機能を使用してコンフィグレーションのチェックを行うことをお勧めします。この機能を使わない限り、ある設計が実行可能であるかどうかを完全に判断することはできないことにご注意ください。Resource MeterだけではONLINEに出来るかどうかはわかりません。したがって、必ずAnalyze機能を使用して最終的なチェックを行うようにしてください。

## 自動バックアップ機能とオンライン接続

バージョン3以降のDME Designerを使用してオンライン接続と同期化を行った際、「Synchronization」ウィンドウの左下の[Store Project File into DME after synchronization]オプションが消えずに残っている場合、DME Designerはオンライン接続後にDMEユニットのメモリ内にコンピュータのカレントデータ(.daf)のバックアップを作成します。Waveファイルを使用している場合、同期化には通常の2倍以上の時間を要することに注意して下さい。

また、オリジナルのプロジェクトファイルを不注意で削除したり、なくしてしまった場合、それ以降DMEデバイスとの同期化を行うことができなくなります。したがって安全のためファイルのバックアップを作成し、また「Synchronization」ウィンドウの[Store Project File into DME after synchronization]アイテムか、または[File]メニューの「DME File Storage」アイテムを使用してDMEデバイス上にもファイルのコピーを保存しておくことをお勧めします。

**問題点:** 同期化中にコンパイルエラーが発生する。

**考えられる原因その1と修正方法:** DSPのトータルのリソース消費量が上限を超過した。この場合、必要のないコンポーネントを削除します。また、リソース使用量が少ないコンポーネントをいくつか交換したり、該当するコンポーネント間に処理負荷を分散することによって、DSPのトータルのリソース消費量が増加した場合でもコンパイルが正常に完了できることを確認できることがあります。

**考えられる原因その2と修正方法:** コンポーネント間の配線が、複数の出力端子から単一の入力端子に接続されている。この場合、配線のコンフィグレーションを変更し、各出力端子がそれぞれ単独の入力端子と接続するようにします。必要ならば、マトリクスミキサーなどのコンポーネントを使用して、複数の出力信号を一つの信号にまとめることができます。

**問題点:** コンポーネントや配線が追加されない。

**考えられる原因その1と修正方法:** DME Designerがオンライン接続されている。この場合、「Synchronization」ウィンドウ中の[Go Off-line]をクリックして、オフラインにしてください。

**考えられる原因その2と修正方法:** 「Designer」ウィンドウが編集モードになっていない。この場合、[Tool]メニューの[Edit]の横にチェックマークをつけてください。

**考えられる原因その3と修正方法:** 現在のユーザが編集を許可されていない。この場合、ログアウトしてから新しいユーザまたは管理者として再度ログインしてください。(ユーザによる編集を禁止する必要がある場合「Security」ウィンドウ中の[Edit]オプションを設定してください)

**問題点:** ユーザモジュールがまったくリストに表示されない。

**考えられる原因と修正方法:** コンテンツフォルダ ([File]メニュー→[Preference]→[ContentsFolder]) が変更された。または「User Module」フォルダが移動した。この場合、「ContentsFolder」フォルダと「User Module」フォルダ内にユーザモジュールファイル(.umf)があることを確認してください。

**問題点:** 「Navigator」ウィンドウ内でコンフィグレーションを切り替えられない。

**考えられる原因と修正方法:** オンライン接続中は、現行のシーンに適合しないコンフィグレーションに切り替えることはできません。この場合、目的のコンフィグレーションに対応するシーンに切り替えてください。

**問題点:** ユーザモジュールをダブルクリックしても、「User Module」ウィンドウが開かない。

**考えられる原因と修正方法:** 問題のユーザモジュールが、[Open User Module Design Window] を選択した上で保存されている。この場合、Saveダイアログを開いて[Open User Module Editor]を選択し、ユーザモジュールを再保存してください。

**問題点:** スロットインコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから[Open]を選択してもエディタが表示されない。

**考えられる原因と修正方法:** 問題のスロットインコンポーネントがエディタを装備していない。この場合、修正方法はありません。

**問題点:** 「Synchronization」ウィンドウのメッセージエリア内に「Reset Config...」メッセージが長時間表示される。

**考えられる原因と修正方法:** シーンが多数セットアップされている場合、処理に時間がかかることがあります。したがって、この表示は問題があることを示すものではありません。処理が正常に終了するようにしてください。

**問題点:** モニタ出力を設定できない。(DME64NとDME24Nのみに該当)

**考えられる原因と修正方法:** 配線によって接続されているチャンネルはモニタ出力用として使用できない。このような接続がなされていないチャンネルを選んでください。

## 4. DME ユニットの詳細情報

### 外部デバイスへの接続

#### 追加オプション

DMEユニットの外部リモートコントロール用の追加オプションとして、ICP1、CP4SF、CP1SFとCP4SWコントローラが利用できます。コントロールパネルのインストール法とDMEユニットへの接続法については、詳しくはコントロールパネル付属のオーナーズマニュアルを参照してください。

#### ● イーサネット経由の接続

インテリジェントコントロールパネルICP1

#### ● 汎用インターフェース (GPI) 経由の接続

コントロールパネルCP4SF、コントロールパネルCP1SFまたはコントロールパネルCP4SW



ICP1



CP4SF



CP1SF



CP4SW

#### ヒント

**GPIの設定を行う際には、必ずGPIセットアップページを使用してレスポンスをチェックしてください。**

DMEユニットの「Utility Display」のGPIセットアップページを使用して、GPI IN端子経由で入力された信号をリアルタイムでモニタすることができます。この機能は、コンフィグレーション完了後にGPIコントロールに生じた問題の原因がGPIデバイス内にあるのか、接続内にあるのか、またはDMEコンフィグレーション内にあるのかを特定するのに非常に便利です。信号がGPI IN端子に返ってきているにもかかわらず、DMEユ

ニットが指示通りに作動しなかった場合、コンフィグレーションデータ内に問題がある可能性が高くなります。それ以外の場合には、DMEユニット自体に問題がある可能性が高くなります。このページを使用すれば、GPIを設定する際にGPIのレスポンスのチェックができるため、大きな効果を発揮することができます。

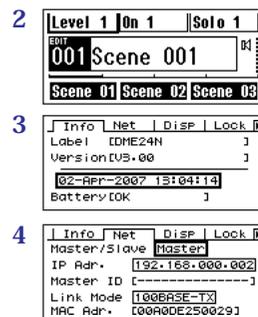
#### GPIケーブルの最大長

コア径0.65mm以上のCPEVケーブルは、最大100mの長さまで使用することができます。

## パネル操作によるDME64N/24Nネットワークのセットアップ

DME64NとDME24NユニットのデバイスグループとIPアドレスは、それぞれのフロントパネルを使用して次の手順で設定することができます。

1. DME64N/24Nの電源をオンにします。
2. [HOME] キーを押し、メイン画面を表示します。
3. [UTILITY] キーを 2 秒以上押し続け、「Utility」画面を表示します。
4. 「Net」ページに切り替わるまで、[UTILITY]キーを何度か押します。
5. [▲] と [▼] キーを使用して、下にあるパラメータリストにカーソルを移動し、[ENTER] キーを押します。



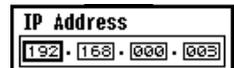
#### ● IP Address

このパラメータで、問題のDMEユニットのIPアドレスを設定します。同じデバイスグループ内のDMEユニットには、すべて同じネットワークアドレスを割り当てる必要があります。

- 注：1. DME ユニット (マスター) を 1 台のみ使用する場合、IP アドレスは「192.168.0.2」に設定してください。
2. サブネットマスクは「255.255.255.0」に固定されています。
  3. マスターデバイスのホストアドレスは 2 から 253 の間、スレーブデバイスのホストアドレスは 3 から 253 の間で設定が可能です。
  4. グローバル IP アドレスをどうしても使用する必要がある場合以外は、必ずプライベートアドレス (すなわち、192.168.0.2 から 192.168.255.253 まで) を使用してください。グローバルアドレスを使用する必要がある場合には、ネットワーク管理者に相談してください。

#### ● Master ID

上記の「Master/Slave」を使用してデバイスをスレーブに指定する場合、対応するマスターのホストアドレスをこのパラメータで設定します。問題のDMEユニットがマスターに指定されている場合は、このパラメータは設定できません。



#### ● Link Mode

このパラメータで、「100Base-TX」が選択されていることを確認します。

6. [HOME] キーを押して戻り、変更を保存します。

対応する編集ダイアログが表示されます。下記の各パラメータを説明にしたがって設定し、設定ごとに[ENTER]キーを押して、設定の確認と入力を行います。

#### ● Master/Slave

このパラメータで、デバイスグループマスターまたはスレーブステータスを設定します。  
Master: デバイスグループごとに1台のDMEユニットをマスターに指定する必要があります。  
Slave: グループ内の他の全てのDMEユニットはスレーブに設定してください。  
注: DME64N/24N と DME Satellite ユニットが一つのデバイスグループ内で接続されている場合、必ず DME Satellite ユニートをグループマスターに指定してください。

## DMEユニットおよび周辺機器関連ホームページ

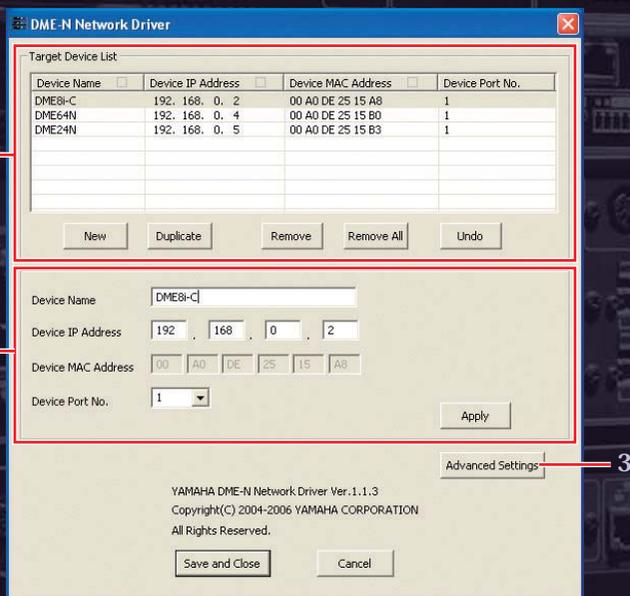
- DMEユニットとアプリケーションに関する最新情報は、ヤマハ・プロオーディオ・ホームページからダウンロードできます。  
<http://proaudio.yamaha.co.jp>
- DMEユニット・ファームウェアの最新バージョンは、ヤマハ・プロオーディオ・ホームページからダウンロードできます。  
[http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/firm\\_soft/index.html](http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/firm_soft/index.html)

- DMEシリーズのSpeaker Processor Componentのライブリデータは、ヤマハ・プロオーディオ・ホームページの「ダウンロード」ページから入手できます。  
<http://proaudio.yamaha.co.jp/downloads/index.html>
- タッチパネルコントローラに関する情報については、こちらをご覧ください。  
AMX ホームページ: <http://www.amx.com/>  
CRESTRON ホームページ: <http://www.crestron.com/>

# 付録: DME-N Network Driverの詳細な設定法

## 「DME-N Network Driver」ウィンドウ

[Start] → [Control Panel] → [DME-N Network Driver]を選択し、「DME-N Network Driver」ウィンドウを表示します。このウィンドウ内のパラメータを使用して、DME-N Network Driverとの通信用にデバイス情報を指定します。



## 1. Target Device List

「Target Device List」には、DME-N Network Driverとの通信用に登録された全ユニットのIPアドレス、MACアドレス、MIDIポート番号が表示されます。これらのデータは、対応するタイトルバーをクリックすることによってソートすることができます。このリスト内のユニットを選択すれば、通信パラメータを確認ことができ、またデバイス情報(2)エリア内の下記のデータを編集することができます。

- デバイスの名称
- デバイスのIPアドレス
- デバイスのMACアドレス
- デバイスのポート番号

これらの欄には対応するユニットの名称、IPアドレス、MACアドレス、MIDIポート番号が表示されます。詳細については、デバイス情報(2)エリアを参照してください。

### [New]ボタン

リストに新しいユニットを追加するには、[New]をクリックします。すると、下のデバイス情報(2)エリアの欄を使用して必要なユニットのパラメータを編集できるようになります。変更を保存するには、[APPLY]をクリックします。

### [Duplicate]ボタン

現在選択しているユニットのデータをコピーしてリストにユニットを追加するには、[Duplicate]をクリックします。すると、下のデバイス情報(2)エリアの欄を使用して必要なユニットのパラメータを編集できるようになります。変更を保存するには、[APPLY]をクリックします。

### [Remove]ボタン

選択したユニットをリストから削除するには、[Remove]をクリックします。問題のユニットがリストの一番下にない場合、リストに隙間が生じないように、その下のユニットが上にシフトします。

### [Remove ALL]ボタン

リスト上のユニットを全て削除するには、[Remove ALL]をクリックします。

### [Undo]ボタン

1回分の操作をキャンセルし、前の状態に戻すには[Undo]をクリックします。取り消し操作を行った直後やウィンドウが表示された直後には、このボタンは灰色になり、クリックできない状態になります。

## 2. デバイス情報エリア

DME-N Network Driverとの通信用に登録したユニットを「Target Device List (1)」内で選択すると、通信パラメータを確認ことができ、デバイス情報エリア内で編集することができます。

### [Device Name]

この欄には、「Target Device List」内で現在選択されているユニットの名称が表示されます。初期設定では名称として「UNIT1」から「UNIT256」が当てはめられていますが、この欄を使用して自由に編集することができます。

### [Device IP Address]

この四つの欄を使用して、「Target Device List」内で現在選択されているユニットのIPアドレスを確認し、設定することができます。IPアドレスの確認と設定に関する詳細については、ページ7を参照してください。

注: 対応するIPアドレスが正しくセットアップされていないと、DMEユニットとの通信を行うことができません。

### [Device MAC Address]

この欄には、「Target Device List」内で現在選択されているユニットのMAC (Media Access Control) アドレスが表示されます。MACアドレスはDMEユニットの製造時に割り当てられるもので、変更することはできません。このアドレスは、不注意により誤ったIPアドレスが設定された場合に、誤ったユニットにデータが送られるのを防ぐためのものです。MACアドレスの確認に関する詳細については、ページ7を参照してください。

注: 1. 対応するMACアドレスが正しくセットアップされていないと、DMEユニットとの通信を行うことができません。  
2. 接続されたユニットのMACアドレスを変更することはできません。

### [Device Port No.]

この欄を使用して「Target Device List」内で現在選択されているユニットのMIDIポート番号を設定することができます。MIDIポート番号もデバイスのID番号として機能することに注意してください。DME Satelliteユニットには「1」を、DME64N/24Nユニットには「1」か「2」を設定するようにしてください。

注: 対応するMIDIポート番号が正しくセットアップされていないと、DMEユニットとの通信を行うことができません。

### [Apply]ボタン

デバイスの名称、デバイスのIPアドレス、デバイスのMACアドレス、デバイスのポート番号を編集したら[Apply]をクリックし、変更を承認します。また、[New]または[Duplicate]をクリックして「Target Device List (1)」に追加したユニットは、[Apply]がクリックされるまでDME-N Network Driverとの通信用としての登録はされません。

**3. [Advanced Settings] ボタン**

「Advanced Settings」ウィンドウを表示するには、[Advanced Settings]をクリックします。このウィンドウを使用して行うことが可能な拡張設定に関する詳細については、次の「Advanced Settings」ウィンドウのセクションを参照してください。

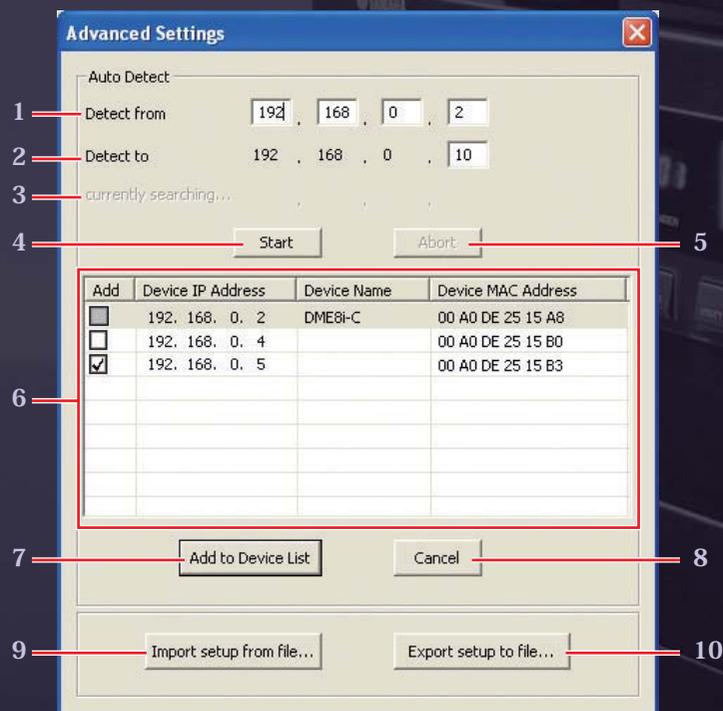
**「Advanced Settings」ウィンドウ**

「Advanced Settings」ウィンドウを表示するには、「DME-N Network Driver」ウィンドウ内の[Advanced Settings]をクリックします。このウィンドウ内に表示されるパラメータを使用して、DME-N Network Driverによる自動検出のセットアップを行います。また、セットアップファイルのインポートとエクスポートもここで行うことができます。

**「Auto Detect」エリア**

「Auto Detect」エリアを使用して、DME-N Network Driverに接続され、通信が可能なユニットの自動検出のセットアップを行います。具体的には、最大254のアドレス (\*\*\*\*\*.1 から\*\*\*\*\*.254まで) の検出が可能です。

注: コンピュータと同じサブネット上にあるユニットのMACアドレスのみを検出することができます。したがってMACアドレスを検索する前に、コンピュータが検索するサブネットに接続されていること、および適切なIPアドレスが指定されていることを確認してください。

**1. 「Detect from」**

この欄は、自動検出を開始するIPアドレスを指定するのに使用します。

**2. 「Detect to」**

この欄は、自動検出を終了するIPアドレスを指定するのに使用します。

**3. 「Currently searching」**

このエリアには、自動検出中にチェックしているIPアドレスが表示されます。それ以外の時には何も表示されません。

**4. [Start] ボタン**

自動検出を開始し、「検出されたデバイスのリスト(6)」にデータを表示させるには[Start]をクリックします。自動検出が行われている間は、このボタンは灰色になり、クリックできないことにご注意ください。

**5. [Abort] ボタン**

自動検出を中止するには、[Abort]をクリックします。自動検出が行われていない時には、このボタンは灰色になり、クリックできないことにご注意ください。

**6. 検出されたデバイスのリスト**

「検出されたデバイスのリスト」には、DME-N Network Driverとの通信が可能な接続済みの検出されたユニットが全て表示されます。最初ほどのユニットも表示されません。

**[Add]チェックボックス**

「Target Device List」に追加したいユニットの[Add]チェックボックスにチェックを入れ、[Add to Device List] (下記) をクリックしてリストにユニットを登録します。すでに登録済みのユニットのチェックボックスにチェックを入れることはできません。

**[Device IP Address]**

このコラムには、対象となる検出されたユニットのIPアドレスが表示されます。

**[Device Name]**

このコラムには、対象となる検出されたユニットの登録名が表示されます。名称が登録されていない場合には、該当するセルは空欄となります。

**[Device MAC Address]**

このコラムには、対象となる検出されたユニットのMACアドレスが表示されます。

**7. [Add to Device List] ボタン**

検出されたユニットを登録するには、「Target Device List」内の[Add]チェックボックスにチェックを入れ、[Add to Device List]をクリックします。

**8. [Cancel] ボタン**

何も変更せずにウィンドウを閉じるには、[Cancel]ボタンをクリックします。

**9. [Import Setup from File]ボタン**

異なる環境で作業を行う際、あらかじめ保存しておいたセットアップファイルをインポートすることができます。インポートするには、[Import Setup from File]をクリックして「Open」ウィンドウを表示し、次にセットアップファイルを選択して[Open]をクリックし、該当する設定をインポートします。

**10. [Export Setup to File]ボタン**

異なる環境で作業を行う際にインポートできるよう、セットアップ・データをエクスポートすることができます。エクスポートするには、[Export Setup to File]をクリックして「Save As」ウィンドウを表示し、次にファイル名を入力して[Save]をクリックし、セットアップファイルを保存します。

# 問題解決とヒント早見表

この表をご覧になれば、DMEユニットを正しくお使いいただくための手順が一目で分かります。

操作内容	注意点・問題点	考えられる原因と修正方法
ソフトウェアのインストール	USBポートとドライバのインストールに関する注意点 USBハブの使用は避ける	→ ページ 03
コンピュータとDMEユニットの接続 (USBケーブル経由)	デバイスの「Utility」画面の「MIDI」ページからのホスト設定 問題点：コンピュータからDMEユニットをUSB経由で正しくコントロールできない。	→ ページ 07
コンピュータとDMEユニットの接続 (イーサネットケーブル経由)	市販のセキュリティソフトウェア パソコンの節電オプション 一対一のコンピュータ接続用ケーブル 無線ネットワーク オンライン接続：ワードクロック設定 DMEの初期化 分析機能の使用 自動バックアップ機能とオンライン接続 問題点：同期化を行っている間にコンパイルエラーが発生する。 問題点：コンポーネントや配線が接続できない。 問題点：ユーザモジュールがリストに表示されない。 問題点：「Navigator」ウィンドウ上でコンフィグレーションが切り替えられない。 問題点：ユーザモジュールをダブルクリックしても、「User Module」ウィンドウが開かない。 問題点：カードコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから [Open] を選択しても、エディタが表示されない。 問題点：「Synchronization」ダイアログボックスのメッセージエリア内に、「Reset Config...」というメッセージが長時間表示される。 問題点：モニタ出力を設定できない。(DME64N、DME24Nのみ該当)	→ ページ 12
DMEユニットの詳細情報	使い方のヒント：GPI設定を行う時には、「GPI Setup」ページを使用してレスポンスのチェックを必ず行ってください。 GPIケーブルの最大長	→ ページ 13

・本カタログに記載の社名および製品名は、各企業の商標もしくは登録商標です。


**YAMAHA**  
 YAMAHA CORPORATION  
 P.O.BOX 1, Hamamatsu Japan  
<http://www.yamahaproaudio.com>

\* 予告なく仕様と外観を変更する場合があります。  
 \* 本カタログの製品の中には、一部の地域では販売されていないものがあります。